

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800191		
法人名	社会福祉法人 福智会		
事業所名	グループホーム ふくち		
所在地	福岡県田川郡弁城4193番地28 (電話) 0947-22-2101		
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 1 日	評価結果確定日	平成 28 年 8 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりの生きがい作りは開園時からの取組み目標であるが、利用者の高齢化や体調の変化に伴い、今まで出来ていたことが出来なくなってきたが、今まで通りのその人の生き方を模索しながらも、全体で出来ることに重点を置くようにした。個別ショッピングやバスハイク等の外出支援や毎日のレクリエーションを充実させることにより、明るく、楽しく元気なホームを目指している。地域交流としては、“畑の日”“ふくちの日”を行っており、身近な地区の老人会の皆様や民生委員の方々にも参加して頂くことにより、地域のホームとして皆様に親しんで頂けるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 28 年 6 月 24 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、福智山を望む緑豊かな自然環境の中にあり、特別養護老人ホームに隣接した木造平屋建ての2ユニットの事業所である。毎月「ふくちの日」と「畑の日」には入居希望者や住民ボランティアが訪れ利用者と一緒にレクリエーションをし、菜園活動の後は昼食会等が定着している。管理者が交代したが、利用者の意向を尊重する取り組みや、利用者それぞれの能力や体力に合わせたレクリエーションを行い、無理のない役割を見つけて生活を充実させる工夫が継続されている。職員の特技を活かした毎月の外出や食事は新鮮な食材、旬のものを提供するように取り組んでいる。医療連携や同一敷地ならではの母体法人との、合同防火防災訓練、研修等が行われ、看取り期の連携も円滑に行われている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は、人権尊重・能力発揮・地域交流の3本柱から成っており、その実践のため年度目標を定め、職員と共に、日々のサービス提供に努めている。	職員に事業所独自の基本理念が周知され、利用者の意思や権利を尊重したケアを行うよう努めている。利用者の持てる力を引き出して充実した生活を支援すること、利用者が地域の一員として暮らすことを目指す「地域交流」など、三つの基本理念の実践が行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には参加したが、小学校等への訪問は1回であり、その他は訪問を受ける形となった。今年度は、訪問回数等を増やして行きたいと考えている。	小学校の七夕会では児童と一緒に七夕飾りをしたり、毎月事業所が開催する住民対象の「ふくちの日」でレクリエーションを行っている。毎月一回以上ある「畑の日」には、老人会や医療関係者で、作業の後は昼食会も行い、地域住民と事業所の相互的な交流が行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の交流窓口になっている“ふくちの日”に民生委員の皆様に参加して頂き、ホーム内容や利用者の状況を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については前向きに対応し、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、「ふくちだより」を配布し、行事や運営状況、利用者の状態、各種の委員会活動等を報告している。また、地域との情報交換を行っている。事業所は災害時住民避難場所となっているので、住民避難を想定した防災訓練などを話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行いながら連携をとっている。	行政とは日頃から運営推進会議の報告、介護保険の更新、生活保護等の窓口相談や事業所だよりを持参し、事業所の取り組みを伝えて協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設同様に拘束廃止委員会を設け、身体拘束、言葉の拘束だけではなく青アザの発生状況についても観察し発生を予防するように取り組んでいる。	終日、居室・玄関は施錠せず、身体拘束をしない介護を実践している。外出傾向のある利用者については、職員全員で把握して目配りを行い、外出時はやや離れて見守る支援を行っている。身体拘束廃止に関する専門委員を配置して内部研修を行い、言葉の拘束をしないことや青あざのチェックなど、身体拘束をしない意識を持って取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	拘束廃止委員会を設置し、併設施設と共に協力しながら、色々な角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員間で話し合っている。	職員は、定期的に権利擁護に関する制度の研修を受けており、日常生活自立支援事業、成年後見制度については相談があれば応じることができるよう学習している。利用者家族への制度についての説明時期は個別的に判断して行っている。	利用者家族への制度の説明は、利用者家族に知識がなければ相談に結びつかず、入居時、家族会、事業所たより等を活用して、制度が理解されるように努めていただくこと、および、権利擁護事業パンフレットは、最新の情報に更新されたものを備え利用することが望まれます。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には、事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂いて、運営に反映させる努力をしている。また、家族が面会に見えた時などに意見や提案などの確認をし、サービス提供に反映させている。	利用者や家族は、運営推進会議に参加し、家族会は年1回開催しており、意見や思いを述べる機会となっている。職員は家族が意見を言いやすい雰囲気や、家族も気軽に要望を伝えることが多い。家族の要望や意見は速やかに対応しているが、更に検討を加えて実施することもある。要望はケアプランにも反映するようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り、職員と様々な問題についても話し合っている。必要に応じ個別にも話し合っている。	管理者は、職員のサービス内容や態度変化に気づきがあれば面談を行うように努めている。個別面談や会議の他、日常的に職員等が意見が言いやすいように工夫している。職員の意見を検討し、働きやすく、休みがとりやすいシフトに見直しが行われた。時間的にも余裕ができた分での外の掃除ができた、休み時間が十分に取れるように反映されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を振り入れており、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等を問わないことにしている。又、職場では、職員の特性に応じた役割分担を心掛け、基本方針として、定年まで働いて頂くようにしている。	採用にあたっては性別や年齢等で差別していない。入職後は人事考課制度や意向アンケートが定着しており、客観的評価により、職員の能力が活かされるよう取り組まれている。資格取得希望者には、業務調整や研修受講等の協力が行われている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。また、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼等を通して行っている。	全職員は、高齢者虐待防止や障がい者等に関する人権研修を受けている。併設の特養の職員と合同の研修会も取り組まれている。事業所は、利用者の人権を尊重する理念も掲げており、職員会議や委員会を通じ日常的に確認や話し合いが行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの向上を取組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より本人様や家族が安心して話の出来る環境を作り、本人様の困っていることや不安、要望等に傾聴していくことで、本人様の置かれている状況を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、これまでのご家族の苦勞を労い、入所希望に至った経緯等に、じっくり傾聴するようにしている。その上で、ご家族の立場に立ち共に協力し合っていける関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴や話し合いの中から、出来ること、得意な事は本来の力が発揮出来るように支援し、また食事準備、片付けや買物なども共に行っていくように心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折りに触れ面会に来て頂くようご家族に声掛けしているが、特に誕生会・敬老会等の行事には参加して頂き利用者と共に大切な時間を過ごして頂くようにしている。遠方のご家族には便りや電話にて利用者の状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人にとって関係の深い方が、気兼ねなく来訪できるよう心がけ、又、利用者の生活地域の交流に参加し、知人や友人との関係が途切れないように支援している。	利用者一人ひとりの状態や能力に応じた地域行事の参加のし方を工夫して外出の支援等を行っている。地域の敬老会や運動会、また対象利用者があれば「ふれあい交流」にも参加している。利用者が久しぶりに友人、知人に会い、会話やお互いの安否確認等ができるように同行支援を行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが深まるように、居室で過ごすことを極力控え、食堂や廊下ソファ等過ごせるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、併設施設へ移転されても、面会に行ったり、ご家族と連絡を取り合ったり、訪問する機会を設けたりして、よりよい人間関係を保っていけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活・職歴・病歴・生きてきた足跡等で見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心がけている。	利用者の意向を把握する場合は、意識してわかりやすい言葉を使うようにしている。利用者の表情や動作、何気ない会話を捉えて思いを把握したり確認に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族に入居前の生活の様子や性格、表情の硬いときの対処の仕方等の情報を得ている。情報により同性介護に変更するなど、利用者の意向に添った取り組みが行われている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・ご家族との関わりの中で生活歴・暮らし方、生活環境を把握しサービスに提供していくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調・気分の変化を確認しながらサービスを実施している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の要望を聞取った後、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議をし、ご本人・ご家族様の意向に基づいた利用者本位の計画を作成している。	介護計画は、利用者と家族の意向をもとに作成されている。日々のケアについては基本は担当制で行なわれているが、計画の見直しやケアカンファレンスについては関係職員並びに隣のユニット職員の参加がある。尚、利用者の状態変化や状況に応じ、3ヶ月毎の介護計画の見直しが実施され、見直し結果については、都度家族に報告されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに個々の食事・水分・排泄・バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を記録している。また、朝礼・終礼の際、申し送りを行い職員間で共有し継続した介護を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、ご家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行い、安心した生活が送れるよう心掛けている。またショッピング・バスハイクなどを導入し、個々の要望に応じた対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し行政・地域の福祉関係者より助言を頂き日々のサービス提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には継続し医療が受けられるようにしている。	受診は、本人及び家族の意向に沿った入居前の主治医受診を基本としている。ホームの協力医療機関や専門医等へのホーム職員の受診同行が行なわれた場合、受診結果の経過や内容等は、家族に適宜報告されている。また、ホームに常勤の看護師が配置され、日々の医療、健康面についても支援が得られている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師・ホームの看護師や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、病院側に本人の特徴・生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医・ご家族と情報交換を行い早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、本人・ご家族の希望を重視し今後の方針について、ご家族・主治医と連携をとりながら検討するようにしている。	重度化や終末期の対応については、「看取りに関する指針」や「同意書」等の整備が行なわれている。その重要性や役割及び研修等、隣接する同法人特養の協力を得て共有化に取り組んでいる。具体的には入居契約時点での説明及び、入居後の利用者の状態変化に応じて、都度、利用者、家族、ホーム関係者等を交えて重度化へ向けた話し合いや対応支援が行なわれている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練・誤嚥時対応を年に1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全員に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加を促し、又、消防署の協力を得て定期的に日勤・夜間帯における実践防火訓練を実施。訓練を通し問題点の洗出しを行い利用者の命を守る対策の向上に繋げている。また、併設施設との協力体制も構築している。	地元消防署や隣接の特養、老人会や地域との連携のもと、「夜間帯」や「地震災害」の想定も含め、避難訓練が定期的に行われている。また、防災ハザードマップの活用や初期消火訓練、職員の駆けつけ訓練等への取り組みが行われている。また、事業所に非常食等を常備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室に居るときや排泄時、入浴時には特にプライバシーに配慮した同姓介助を基本として行っている。言葉掛けには利用者の尊厳を傷つけないように配慮している。	管理者と職員は、特に入浴、排泄等の誘導やケア時点での「声かけ」には、利用者への特段の配慮、対応に留意している。また、利用者の尊厳、プライバシーの確保についてのマニュアルを整備し、職員研修等で徹底を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声を掛ける時は、利用者の意思が出せるような声掛けを常に行っている。又、外出時や入浴後の選択、行事食等のメニュー・ショッピング・散歩・ドライブ等については希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で過ごすことを好む人、煩わしいと感じる方が居るので、その人の思いに合わせて行事への参加を促したり、したい事を選択できるように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや白髪染めを行っている。男性は毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて化粧・マニキュアを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食事形態を考慮したり好みによるパン食や行事食の希望メニュー等に、配慮している。食事の準備、調理、盛り付け配膳、後片付け等も無理のない範囲で手伝ってもらっている。	利用者と職員が一緒に行なう食事は利用者の楽しみなひと時になっている。嗜好調査を定期的に行い、一人ひとりの好みの把握を行なっている。ウッドデッキを活用して誕生食や行事食、パイキングなどの試みも行なわれている。また、ホームの菜園で収穫された新鮮な野菜が食卓を賑わすことも多い。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は、食材業者が行っているが、利用者のアルブミン値を定期受診時に測定し、栄養状態を確認している。また、毎日の食事摂取量や水分の種類摂取量も記録し、日々の食事管理も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の歯磨き・口腔ケアは習慣化している。利用者の能力に応じた支援で、清潔保持に努めている。義歯使用者は、夕食後に預かりポリドントにて洗浄、除菌をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレへの声掛けをしたり、利用者の仕草、表情より判断して誘導を行うことにより、リハビリパンツや尿取りパットを使用しないで済むように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、有効な声かけや誘導により、失敗の少ないトイレでの排泄支援に努めている。排泄の自立へ向けた支援により、改善した例も多くある。利用者の表情が豊かになり、明るさが戻り「生活の質の向上」に結びついている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックリストにて把握し、水分補給状況も記録し確認している。食物繊維の多い物の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、午前午後問わず入浴ができるようにしている。利用者の方の希望時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。	入浴は基本的に毎日入浴とし、希望する時間帯に入浴できるが、午前中に入浴することも定着している。利用者のその日の体調や希望をもとに入浴しやすいタイミングを図っての入浴支援を行っている。入浴剤、柚子湯なども試みている。入浴のない日は清拭等で清潔保持に努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなったときに眠るようにしている。極力、薬を使用せず安眠できるように心掛けている。寝付きの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、お茶等を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は、日にち、名前、朝昼夕のいずれかの3点確認を行い飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合には状態を細かく行い、変化があれば受診を行う。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意な事や興味のある事を引き出して、日々の生活に楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく本人の希望により個別ショッピングに行かれている。季節の花見物等、その時々に応じて対応している。	ホームの理念に地域交流とあり、「ふくちの日」と銘打って地域住民との交流が定例化している。地域の「いろりの郷（古民家）」に訪れ、思い思いの時間を過ごしている。その他、家族も参加するドライブやバスハイク、花見など季節の行事も多彩で、外出機会も多い。買い物など個別の外出支援へも対応している。現在、外食支援の検討を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には、自己管理してもらっている。できない利用者の方は、ショッピングなどで、お金を手渡し支払いが出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定表や定期的に、ふくちだよりを家族に送り利用者の様子が判るようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い食堂・ウッドデッキがあり日中の強い日差しは、レースカーテンやすだれで遮光している。換気にも十分配慮し、トイレは尿臭などしないよう、こまめに掃除をしている。	利用者が多くの時間を過ごす共用空間は、回廊式で真ん中に厨房、テラスがある。トイレも4箇所、廊下には談笑できるようソファが設置されている。その他、和室が2部屋設けられていて多目的に利用されている。玄関ベンチや西日よけのよしずなど、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮、工夫がされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ・玄関ベンチ、和室、食堂など、それぞれ思い思いの過ごし方が出来る場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、思い出の品、馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことで、安心感や居心地の良さ見たり感じたりしてもらるようにしている。	居室は、利用者一人ひとりの個性に合わせたレイアウトで、本人の思いや家族の思いがうかがい知れる癒しの住環境となっている。また、清潔で機能性及び安全面への工夫など、利用者が快適に過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てバリアフリーになっている。必要箇所への手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用した浴槽などがある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は、人権尊重・能力発揮・地域交流の3本柱から成っており、その実践のため年度目標を定め、職員と共に、日々のサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には参加したが、小学校等への訪問は1回であり、その他は訪問を受ける形となった。今年度は、訪問回数等を増やして行きたいと考えている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の交流窓口になっている“ふくちの日”に民生委員の皆様に参加して頂き、ホーム内容や利用者の状況を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については前向きに対応し、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行いながら連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設同様に拘束廃止委員会を設け、身体拘束、言葉の拘束だけではなく青アザの発生状況についても観察し発生を予防するように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止委員会を設置し、併設施設と共に協力しながら、色々な角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員間で話し合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には、事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂いて、運営に反映させる努力をしている。また、家族が面会に見えた時などに意見や提案などの確認をし、サービス提供に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り、職員と様々な問題についても話し合っている。必要に応じ個別にも話し合っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を摂り入れており、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等を問わないことにしている。又、職場では、職員の特性に応じた役割分担を心掛け、基本方針として、定年まで働いて頂くようにしている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育の研修等には極力参加するようにしている。また、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼等を通して行っている。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの向上を取組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談に来られた時より本人様や家族が安心して話の出来る環境を作り、本人様の困っていることや不安、要望等に傾聴していくことで、本人様の置かれている状況を理解するように努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談に来られた時より、これまでのご家族の苦労を労い、入所希望に至った経緯等に、じっくり傾聴するようにしている。その上で、ご家族の立場に立ち共に協力し合っていける関係作りに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴や話し合いの中から、出来ること、得意な事は本来の力が発揮出来るように支援し、また食事準備、片付けや買物なども共に行っていくように心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折りに触れ面会に来て頂くようご家族に声掛けしているが、特に誕生会・敬老会等の行事には参加して頂き利用者と共に大切な時間を過ごして頂くようにしている。遠方のご家族には便りや電話にて利用者の状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人にとって関係の深い方が、気兼ねなく来訪できるよう心がけ、又、利用者の生活地域の交流に参加し、知人や友人との関係が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが深まるように、居室で過ごすことを極力控え、食堂や廊下ソファ等で過ごせるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、併設施設へ移転されても、面会に行ったり、ご家族と連絡を取り合ったり、訪問する機会を設けたりして、よりよい人間関係を保ってけるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活・職歴・病歴・生きてきた足跡等で見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心がけている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・ご家族との関わりの中で生活歴・暮らし方、生活環境を把握しサービスに提供していくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調・気分の変化を確認しながらサービスを実施している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の要望を聞取った後、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議をし、ご本人・ご家族様の意向に基づいた利用者本位の計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに個々の食事・水分・排泄・バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を記録している。また、朝礼・終礼の際、申し送りを行い職員間で共有し継続した介護を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、ご家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行い、安心した生活が送れるよう心掛けている。またショッピング・バスハイクなどを導入し、個々の要望に応じた対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し行政・地域の福祉関係者より助言を頂き日々のサービス提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には継続し医療が受けられるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師・ホームの看護師や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、病院側に本人の特徴・生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医・ご家族と情報交換を行い早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、本人・ご家族の希望を重視し今後の方針について、ご家族・主治医と連携をとりながら検討するようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練・誤嚥時対応を年に1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全員に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加を促し、又、消防署の協力を得て定期的に日勤・夜間帯における実践防火訓練を実施。訓練を通し問題点の洗い出しを行い利用者の命を守る対策の向上に繋げている。また、併設施設との協力体制も構築している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室に居るときや排泄時、入浴時には特にプライバシーに配慮した同姓介助を基本として行っている。言葉掛けには利用者の尊厳を傷つけないように配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声を掛ける時は、利用者の意思が出せるような声掛けを常に行っている。又、外出時や入浴後の選択、行事食等のメニュー・ショッピング・散歩・ドライブ等については希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で過ごすことを好む人、煩わしいと感じる方が居るので、その人の思いに合わせて行事への参加を促したり、したい事を選択が出来るように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや白髪染めを行っている。男性は毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて化粧・マニキュアを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食事形態を考慮したり好みによるパン食や行事食の希望メニュー等に、配慮している。食事の準備、調理、盛り付け配膳、後片付け等も無理のない範囲で手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は、食料業者が行っているが、利用者のアルブミン値を定期受診時に測定し、栄養状態を確認している。また、毎日の食事摂取量や水分の種類摂取量も記録し、日々の食事管理も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の歯磨き・口腔ケアは習慣化している。利用者の能力に応じた支援で、清潔保持に努めている。義歯使用者は、夕食後に預かりポリドントにて洗浄、除菌をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレへの声掛けをしたり、利用者の仕草、表情より判断して誘導を行うことにより、リハビリパンツや尿取りパットを使用しないで済むように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックリストにて把握し、水分補給状況も記録し確認している。食物繊維の多い物の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、午前午後問わず入浴ができるようにしている。利用者の方の希望時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなったときに眠るようにしている。極力、薬を使用せず安眠できるように心掛けている。寝つきの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、お茶等を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は、日にち、名前、朝昼夕のいずれかの3点確認を行い飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態を細かく行い、変化があれば受診を行う。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意な事や興味のある事を引き出して、日々の生活に楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく本人の希望により個別ショッピングに行かれている。季節の花見物等、その時々に応じて対応している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には、自己管理してもらっている。できない利用者の方は、ショッピングなどで、お金を手渡し支払いが出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定表や定期的に、ふくちだよりを家族に送り利用者の様子が判るようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い食堂・ウッドデッキがあり日中の強い日差しは、レースカーテンやすだれで遮光している。換気にも十分配慮し、トイレは尿臭などしないよう、こまめに掃除をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ・玄関ベンチ、和室、食堂など、それぞれ思い思いの過ごし方が出来る場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、思い出の品、馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことで、安心感や居心地の良さ見たり感じたりしてもらえるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てバリアフリーになっている。必要箇所への手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用した浴槽などがある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない